



No. 202
2017.November

VOS

特集

お帰りなさい

Page 02.

ホームカミングディ

Page 08. Young Technologist

Page 10. 全国高専めぐり

Page 11. コラム

Page 12. 私の抱負

Page 13. ギダイニュース

Page 16. 受賞報告／編集後記



特集

お帰りなさい

「どんなに曲がりくねっていても、愛と畏敬の念を持って歩むことのできる道を追い求めよ」の名言を残したのはヘンリー・ディヴィッド・ソローです。VOS202号は、ホームカミングディ開催を記念し、思い出深い長岡技術科学大学の学び舎で再び会し、また思い新たに長岡を去られた皆様の思い、新潟県で活躍する卒業生、本学関係者の特集を組みました。長岡技術科学大学で人生の道を決め、新潟県で活躍する方々です。

9月23日（土）に本学初のホームカミングディ2017を開催しました。

開催にあたって、名誉教授懇談会及び同窓会と連携し、約150名の皆様にご参加いただきました。

東学長、久曾神名誉教授懇談会長、磯部同窓会長の挨拶で開会し、東学長の講演、参加者全員による座談会の後、名誉教授懇談会と施設見学が行われ、夕方より第一食堂にて交流会を開催しました。

東学長の講演では、本学の近況報告と開学50周年に向けた取組の説明があり、卒業生で良かったと思える大学であるよう質の高い教育とサービスを目指し努力するとの決意が述べられました。また、座談会では本学の歴史や技大生の変化が話題となり盛会のうちに終了しました。



来年度は9/16（日）、技大祭と同時開催予定！

ホーム
カミングディ
2017

お帰りなさい（ほっと一息を！）

機械創造工学専攻 教授

田辺 郁男 Ikuko Tanabe



私は本学を一期生として修士課程を修了しました。修了後、本学を離れることなく35年余りの年月をここで過ごさせていただいており、あと4年でもう一度本学卒業となる予定です。当時は、創造設計の生産設計講座に所属し、軟式野球部とサイクリング部にも所属していました。

この35年間で、学内東側の桜並木は、当初親指程度の太さであった幹が、今では両手にあまる太さとなり、その幹には苔が生え古木の風格を加味し、春には市民の方々に花見会場として提供されています。また、学内西側の樺並木は、根っこが太くなり、隣の歩道を波打たせ、スムーズな歩行を妨げるほどですが、秋には色合いの鮮やかな紅葉&黄葉のハーモニーを奏でています。学内の建物は、開学当初の建物の構成の中に、生物棟、環境システム棟、セコムホール、マルチメディアセンター、屋内プール・トレーニングルーム、博士課程研究実験棟、原子力システム安全棟などが新設されましたが、遠くからの眺望は昔とほとんど変わっておらず、学内散策でも昔の思い出をひしひしと感ずることが出来ます。最近のニュースとして、昨年、日本経済新聞の企業人事担当者から見た大学のイメージ調査で総合ランキング1位となりました。これは、現役はもとより、OB・OGの方々が

が培われた成果と考えます。私たちの中にあるVOS (Vitality, Originality, Services) の精神、5か月間の国内外の実務訓練などが35年以上継続されていることに起因しているものと考えます。

OB・OGと本学で会える機会としては、そのほとんどが就職業務の一環として来学される場合です。来学されるOB・OGの年齢は、卒業後数年の方が多いのですが、かなりの年配者もおられ、会社ごとにまちまちです。それ以外には、授業の非常勤講師をさせていただいている場合や、9月中旬に開催される技大祭にクラブのOB・OGとして来学される場合もあります。最近は、「55歳になって、会社からリフレッシュ休暇をもらったので、国内旅行のついでに久しぶりに大学が見たくなった。」というOBとともに、見学会&懇親会をして、ゆったりとした一時を過ごしました。これは3ケースほどありました。残念ながら当時の指導教員の先生方は退官されておられましたが、各OBとも学内に楽しかった思い出を十二分に回顧されているようでした。

「温故知新」。本学に来て、昔を回顧し、リフレッシュしてください。時に触れ、無理にでも時間を作り、是非、大学に遊びに来ていただきたいと考えます。お待ちしております。

「燕三条発 プレミアム家電メーカー」を目指して

ツインバード工業株式会社 代表取締役社長
(本社：新潟県燕市)

野水 重明 | Shigeaki Nomizu



いま、ツインバード工業は“ライフスタイル家電メーカー”として注目を集めています。

モノがなかった昭和期は、多くの方が「電子レンジがないからほしい」といった明快なニーズをお持ちで、当社はそれを可能な限り良心的な価格でお届けしてきました。しかし平成以降は経済が成熟してモノが余り始め、人は「もっと自分のライフスタイルや価値観に合ったモノがほしい」と妥協せず選び始めました。そこで私たちは「家電も大量生産から少量多品種生産の時代が来る」と考え、商品開発をこの方向へと大きく舵を切ったのです。

これにより当社は大きく成長しました。大規模な生産工場を持つ企業より、創意工夫で様々な商品を出せる企業のほうが業績を伸ばす時代が来たのです！だから当社には今、自慢の商品がいくつもあります。例えば当社「だけ」の「ブランパン」対応ホームベーカリー。また頭の筋肉をリラックスさせ、フェイスラインを引き締める「セレブリフト」や360度回転するオブジェとしても美しい扇風機「ピルエット」も当社「だけ」。さらには、JAXA(宇宙航空研究開発機構)からの依頼を受けて国際宇宙ステーションにも「フリーピストン・スターリングクーラー」という独自の冷凍技術を用いた宇宙実験用冷凍冷蔵庫を納品しています。

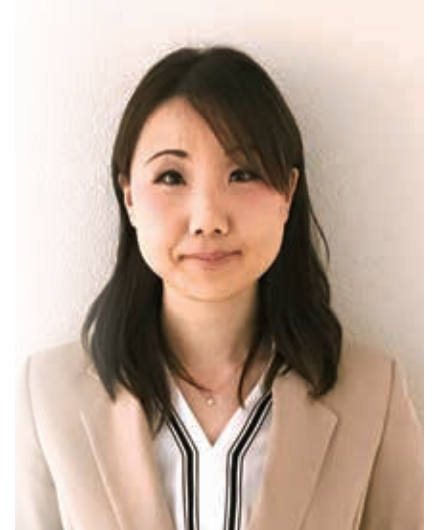
そんな私たちの“ブランドプロミス”は「一緒に、つくる。お客様と。」。お客様のライフスタイルにイノベーションを起こそうとするなら、世界一お客様のお声を大切にする価値共創企業を目指す必要があるからです。さらに、我々には技術的進化を支えて下さる大きな大きな味方があります。それが、私の出身地でもあり、ものづくりの街として世界的に知られる燕三条地域の工場群と、現在も新技術の開発などでお力を借りている母校・長岡技術科学大学。そう、我々が「燕三条発 プレミアム家電メーカー」として、オリジナリティ溢れる高品質な商品を、国内はもとより世界に発信できているのは、地元新潟の技術力があってこそなのです。

およそ25年前、私は金融機関など社会人を5年経験した後、とある大先輩より「メーカーの社長になるには、自ら高度な技術知識が必要」との助言を頂き、一転、本学大学院工学研究科情報・制御工学専攻で昼夜を問わず研究室に籠り夢中で博士号の取得を目指す日々を送るようになりました。その時の経験や人脈があつてこそ、現在のツインバード工業があります。最後に私は、当社を支え、かつこのような機会を頂いた母校の名を高めるためにも、本学で培った知識・技術を活かし、志高い経営をしていくことを誓います。

歴史を感じてみませんか

長岡工業高等専門学校 環境都市工学科 助教

小島 由記子 | Yukiko Kojima



私は昨年4月より長岡工業高等専門学校 環境都市工学科で教員をしております。地盤工学、測量などの講義をはじめ、物理学実験、土質実験などの実験科目を担当させていただいています。着任から1年半が経ちましたが、毎日が新しい発見の連続で、とても充実しています。

現在は、地震や防災に関する研究をしており、長岡技術科学大学の先生方や学生さんたちとご一緒させていただく機会も多く、お世話になっております。研究経験も浅く、まだまだ未熟ではありますが、一日でも早く高専の教員として、研究者として、一人前になれるよう努めてまいりたいと思います。

私の出身は新潟県長岡市の摂田屋(せったや)というところ。古くから醸造のまちとして栄えた土地であり、まちを歩くと、お酒や味噌などの香りが漂ってきます。摂田屋という地名は「接待屋」からきていて、旧三国街道を行く人のための無料休憩所があったことに由来するそうです。旧三国街道は、殿様街道とも呼ばれ、江戸時代の参勤交代のときに、お殿様が籠から降りて歩いた道とされています。現在も当時の幅員のまま残っているため、歩きながら歴史を感じることができます。

国の登録有形文化財に指定されている町家や蔵も多数あり、特に機那サフラン酒本舗の土蔵の

鍍絵(こてえ)は大変有名です。最近では、長岡市の観光名所の一つとして、摂田屋に多くの方がいらしています。

摂田屋は、長岡技術科学大学と同じ長岡市内にありますが、信濃川の東側に位置するため、これまであまり訪れる機会のなかった方も多いのではないのでしょうか。しかし、2013年11月にフェニックス大橋が開通し、現在は大学から車で約15分と大変便利になっています。

今は長岡を離れている皆さんも、久しぶりに母校を訪ね、そのついでに摂田屋で歴史を感じてみませんか？近くには有名な生薑醤油ラーメンのお店もありますし、美味しいお酒もたくさんありますよ。





技大での出会いを大切に！

新潟市水道局技術部水質管理課

今井 美友 | Miyu Imai



私は、新潟市の普通科高校を卒業し、長岡技術科学大学工学部材料開発工学課程へと進学しました。長岡技大は、就職率も高く、実践的・創造的技術者の育成を目的とした大学であることに強い魅力を感じたからです。

進学してから大学を卒業するまでの間は、授業、テスト、アルバイト、研究で忙しかったですが、ともに頑張れる友人や研究室の先生や仲間のおかげで充実した4年間を送ることができました。

現在は、新潟市水道局で働いています。新潟県内で就職し、地元で貢献したいという思いと、大学で学んだ化学の知識が活かせる仕事に就きたいという思いがあり、今の職場を選びました。主な仕事内容は、水道水の水質検査を行い、安全性を確認することです。具体的には、職員で新潟市内の水質検査地点に行き、サンプリングをします。その後、水道水が、国の定めた水質基準に適合しているかどうかを確認するために、水質検査を行います。検査の際には、大学で学んだ、化学の基礎的な知識が活かせていると感じています。

最近の出来事としては、日本分析化学会新潟地区部会研究発表会のポスターセッションに参加する機会がありました。ポスターの全体的なレイアウト、文章、図などを一から作り上げることに苦勞し、

作業が滞ることもありましたが、課内の人にも協力を求めることでポスターを完成させることができました。

仕事をしていて常を感じることは、一人で仕事はできないということです。そのため、上司や同僚と協力し、チームとして結果が出せるように努めています。これは、大学時代に学んだ「自らの力で調べ、仲間と協力して問題を解決していく」ということが現在の自分の糧になっていると思います。

長岡技大には、進路や研究で悩んだときに、親身になって相談に乗ってくださる先生方がいますし、卒業してからも仕事で関わる機会が多いです。自分のために、時間を自由に使える大学生活は、先生方や外国人留学生、様々な都道府県出身の長岡技大生と積極的にコミュニケーションを取る絶好のチャンスだと思います。



私が働いている水質管理センター



技大パワー研は私の原点

TDKラムダ株式会社
技術統括部 新エネルギー技術部
設計1グループ グループマネージャー

岩谷 一生 | Kazuki Iwaya



私は、故高橋勲先生のもとパワーエレクトロニクスを学びました。

学生時代、パワーエレクトロニクスの“パ”の字も知らなかった私は、毎週開かれる報告会で、先生に「君・・・そんなじゃウチの研究室、卒業できませんよ・・・」、「君・・・頭が錆びているな(茶髪)・・・」と言われたことが衝撃的でした。それからは、髪の毛を黒く染め直し、昼夜問わず必死で研究したことを昨日のように思い出します。厳しくもあり、また人間身あふれる故高橋勲先生のご指導は今でも忘れることができません。

現在はTDKラムダ株式会社の長岡テクニカルセンターで、スイッチング電源と呼ばれるパワエレ機器の設計を行っています。最近では自然エネルギーを有効活用するための双方向DC/DCコンバータの開発を行っており、学生時代に培った問題解決能力やパワーエレクトロニクスの知識を最大限に活用できる職場です。

現在、伊東先生、宮崎先生と共同研究を行っており、2か月に1度くらいは大学へ訪問して打ち合わせを行うことがあるのですが、その度に担当学生さんや先生の研究に対する情熱が伝わってきて、日常業務で薄れていた自分の中のエンジニア魂に火が付きまします。また、純粋に技術議論をすることで、学生時代に我武者羅に研究に打ち込んでいた情熱を思い出します。校舎は改装され、研究室も綺麗に生まれ変わっていますが、パワー研の学生さんは昔と変わらず一生懸命に研究をしてい

ます。そういう姿を見ていると刺激を受けると同時に、毎回初心に帰ることができます。

今は、長岡市内に家を建て家族5人で生活していますが、実は私の出身地は北海道です。年に一度家族を連れて帰省します。やはり北海道は美味しいものが沢山あります。でも、そんな北海道でも新潟に勝てないものがあります。それは何と言っても「酒」です。酒を飲むたび、「長岡に就職して良かったな!」と本当に思います。私にそんな酒の“美味しさ”を教えてくださいましたのも故高橋勲先生であり、“飲み方”を教えてくださいましたのはパワー研先輩である伊東先生、芳賀先生です。今でもご一緒させて頂く機会があり、学生時代の思い出で盛り上がります。

楽しかった思い出、辛かった思い出、技大に行けばすべて思い出し、原点に返ることができます。そして、上富岡には今も変わらずパワーエレクトロニクスの熱い風が吹いています・・・。



TDKラムダ株式会社 長岡テクニカルセンター
(新潟県長岡市)

Young Technologist

シリーズ「ヤング・テクノロジスト」では、
新進気鋭の若手教員を紹介します。

no. 12 中村 文則

環境社会基盤工学専攻
助教

構造物の将来を予測する —構造物の合理的な維持管理を目指して—

Q 今回、文科省科学研究費助成事業の若手研究Aに採択された研究課題について教えてください。

「高度な環境予測技術を統合したコンクリート構造物の環境劣化予測システムの構築」の研究課題が採択されました。コンクリート構造物の劣化状況を予測して、構造物を長寿命化させる研究です。

Q 具体的にどのような研究をしているのですか？

コンクリート構造物は、降雨や風、海域からの塩分などが長期的に作用することによって劣化していきます。そこで、自然環境や構造物の劣化状況を数値シミュレーションで予測する研究を行っています。簡単にいえば、パソコンの中に、図のような風や波などの自然環境と構造物を再現し、その結果から将来の状況を確認するようなものです。

Q 今後の方針についてお聞かせください。

自然環境作用とそれによる構造物への影響について研究を続けていき、社会基盤の合理的な維持管理を目指していきたいです。

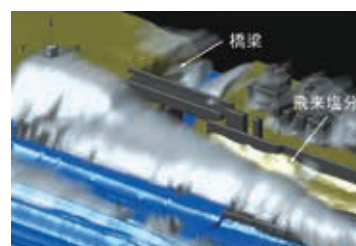


図 数値シミュレーションの一例

no. 13 山本 謙一郎

基盤共通教育部
講師

複雑系を確率論的手法で調べる

Q 専門分野を教えてください。

決定論的現象の数学モデルである力学系を確率論的手法で研究するエルゴード理論が専門です。特にコンパクト距離空間上の連続写像からなる力学系が明記性とよばれる軌道に関する性質を持たない場合に系が大偏差原理を満たすかどうかということに興味を持って研究をしています。ちなみに『力学系』と言うと『力学』をやっているのかと言われることがしばしばありますが力学は関係なく、内容は純粋数学です。

Q 研究の進め方は？

大きく分けると、(未解決の)問題を設定する、証明を考える、論文・研究集会で発表する、の3つの段階に分かれます。数学の研究といった場合、証明を考える時を主に指すのだと思うのですが、器具を必要とせずいつでもどこでも出来るのが数学の素晴らしいところです。机にじっと座って考えるよりもうろうろ歩き回りながら考えた方が思考の焦点が定まりやすかったりするので、証明を考えるときにはメモ帳をポケットに入れて散歩しながら考えることが多いです。そんなとき「もしかしたらこの方法でうまくいくかもしれない」と思った方法をメモしておいて後で机に向かって細部を確かめようとワクワクしている時が一番幸せです。

また、数学者のほとんどは研究に関して秘密主義的ではなくオープンです。そのため、研究発表直後や飲み会で気さくにワイワイ議論する中で次の問題を思いつくこともしばしばあり、面白いものです。



KENICHIRO YAMAMOTO

FUMINORI NAKAMURA

全国高専めぐり

シリーズ

第三十三回

舞鶴工業高等専門学校

高専COCの先駆けとして

独立行政法人 国立高等専門学校機構
舞鶴工業高等専門学校 校長

齋藤 福栄
Fukuei Saito



本校は、「海の京都」の中心都市舞鶴に位置しています。地域人口は減少傾向にありますが、京都縦貫自動車道などインフラの充実、舞鶴引揚記念館収蔵資料のユネスコ世界記憶遺産登録など地域文化資産への注目の高まりによって観光客数は増加しており、市の地方創生の取組を活気付けています。戦後失われた海軍の技術者教育機能を代替するように、半世紀前に地元の熱心な誘致で開校した本校は、今日では高

専COCの先駆けとして、地域志向教育、地域と連携した研究、社会貢献活動を進めており、地域への貢献を重点の一つとしています。毎冬、市の委託により、実習の一環として学生が製作したイルミネーションが東舞鶴駅前を彩っています。国土交通省登録資格制度による「橋梁点検技術者」などの資格付与も行う社会基盤メンテナンス教育センターは、長岡技科大出身の教員を中心に、老朽化した橋梁など社会基盤の維持管

理技術を地域の企業や自治体の技術者に提供するとともに、高専教育へも還元しています。全国最大規模の収容力を誇る学寮は、多様な地域からの学生受入を可能としており、低学年全寮制の伝統と相俟って、本校卒業生のたくましい「生きる力」を育む源となっています。

舞鶴高専URL：
<http://www.maizuru-ct.ac.jp/index.html>



東舞鶴駅前を彩るイルミネーション



社会基盤メンテナンス教育センター

舞鶴高専 から 長岡技大へ



機械創造工学専攻 修士課程2年

家城 直希

Naoki Ieki

舞鶴工業高等専門学校 機械工学科
平成26年 3月卒業

視野を広げるための進学

高専時は卒業後に就職することを考えていましたが、進学することで選択の幅が広がると思い、本学へ進学しました。本学の制度である実務訓練によって、就職への考え方が変わりました。学校で学んだことが仕事でどのように活かされるかなど、漠然としたイメージしか持っていませんでしたが、企業で5ヶ月の間仕事をさせて頂くことで、就職後のイメージを確かなものにすることが出来ました。

また、サークルは高専、大学ともに軽音楽部に所属していますが、本学の軽音楽部では学外での活動や他大学との交

流などが盛んで、活動の幅が広がりました。こういった経験から、本学へ進学したことによって、高専時に比べ様々な面において視野が広がったと感じています。



実務訓練先の駅伝大会

Part 3

留学生コラム



文 Nishikawa Nicha

ニシカワ ニチャー

修士課程 情報・経営システム工学専攻2年
出身：タイ

「By failing to prepare, you are preparing to fail」



留学生から自分の好きな言葉や思い入れがある「ことば」を一つ挙げてもらい、その言葉に関するエピソードなどを紹介します。

私はベンジャミン・フランクリンの「By failing to prepare, you are preparing to fail」というフレーズが好きです。このフレーズは日本語で言いますと「準備に失敗することは、失敗の準備をしている」という意味です。

大学時代にインターネットに書いてある【成功者の共通点】という記事を読みました。この記事中のいわゆる成功する人は時間を有効に使います。人間は1日24時間の体内時計を持っていますが、成功者はその体内時計、時間をベースに、過ごす習慣を持っています。

私も、留学生活が始まる時に新しい環境に慣れるのは大変でしたが、その言葉を実際に実現してきました。毎日朝早く起きてから、当日はもとより、前

もって、明日、来週の計画や予定などを立て、準備をしてきました。そのため、期日よりも早めに仕上げることができ、目標を達成することに繋げることが出来ました。

私は留学生として、このような実行、実践がきっと役に立ち、色々なことの良い結果を得られると信じます。その結果、得られる経験が私をより成長させてくれると信じます。



Part 3

コラム 執行部 だより

秋とススキと団子

今年の中秋の名月は10月4日。明るい月の映えるきれいな夜空でした。この季節に本学周辺でよく見かけるススキは、秋の風物詩の一つです。

ススキといえば、幼い頃に月見飾りとして団子とともに家々で供えられていたことをよく覚えています。この記憶が鮮明なのは、我が家の縁側にお供えていた団子が誰かに盗られてしまい、ススキだけが寂しく残っていたと父から聞かされたため...団子を食べることのできなかった無念さがあつたからなのでしょう。私はかなり食い意地の張った子どもだったようです。月見のために縁側を開け放つことのできるのんびりとした時代でした。

ススキは、秋の深まる11月の末頃まで見かけます。道路脇で「おいでおいで」をしていた穂先が、すっかり開いて「さようなら」をされているようです。冬支度と冬タイヤ交換の時期を、毎年ススキから気づかされます。



副学長
(教育研究推進担当)
[文] 佐藤 一則
Kazunori Sato

Part 3

コラム 事務局 だより

子供の成長を夢見て

先日、親として初めて子供と技大祭に来てみました。只今、何にでも興味津々の3歳の息子は、化学のおもちゃ箱で「ギダイム」を作ったり、水に溶いた片栗粉を手でギュッとするものなどに触れ、夢中になって遊んでいました。

私は、これまで総務系の仕事が多かったため、学生のイキイキとした姿を目にすることがあまりなく、楽しそうに活動していた姿がとても印象的でした。自分の子供たちが将来、このように様々な経験を通して成長してくれたらいいのにな。と願いました。それと、親の立場として改めて、実務訓練制度や就職率が高いなどの本学の特色が素晴らしいと感じ、また、育児休業している間にも業務改善が着々と進んでおり驚きました。私も子供たちに誇れる技大を目指し、業務に取り組んでいかなければと感じました。

さて、息子が技大祭で一番楽しみにしていたギダイジャー。始まり早々ギャン泣き。来年は泣かずに成長した姿を見たいものです。



総務課総務主任
[文] 小田原良美
Yoshimi Odawara

私の抱負

本学の技術力を背景とした産学官連携イノベーションの一層の深化を探る

情報・経営システム工学専攻 教授

大村 哲臣

Tetsuo Ohmura

2017年9月1日に原子力規制庁から赴任しました大村哲臣です。

元々の専門分野は原子力工学で、1985年に通商産業省（現経済産業省）に入省し、主に原子力安全関係の部署で仕事をを行ったほか、産業立地政策、産業技術開発、産業保安、国際協力など、技術政策・開発を含めた様々な分野の行政を経験しました。また、国際関係では、在インドネシア日本大使館で主にODAの企画・立案に従事し、国際原子力機関（IAEA）で原子力安全分野のアジア協力プロジェクトを担当しました。その後、2011年に発生した東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故で

は、規制機関としての事故対応はもとより、原子力規制委員会の発足に伴う新規規制基準の策定及び審査などに携わりました。

所属している情報・経営システム工学専攻では、産学官連携論や主に留学生を対象としたTechnology and Public Policyなどの講義を受け持っていますが、併せて、原子力安全関係の講義・研究や大学の産学官連携のプロジェクトにも貢献していきたいと考えています。

これまでの政府及び関係機関での経験を活かしつつ、また新たなフィールドにチャレンジして仕事をしていきますので、よろしくお願いいたします。

NEWS

ギダイニュース

TOPIC 01

長岡ひと・みらい産業支援室及び産学交流ラウンジを新設

民間企業、金融機関、地方公共団体等の外部機関との研究面等での連携・協力を通じた社会への貢献などを図るため、産学官連携の足掛かりになることを目的に、総合研究棟7階に長岡ひと・みらい産業支援室及び産学交流ラウンジを新設しました。

7月19日（水）に開催した開所式には、学内外併せて約70名の出席がありました。開所式は、東学長の挨拶から始まり、記念講演会やフロア紹介、また、6月より新装したテクノミュージアムを見学いただきました。



産学交流ラウンジ



長岡ひと・みらい産業支援室

TOPIC 02

ビアテラスを設置

第一食堂に隣接するビアテラスを設置しました。この場所は、教職員及び学生をはじめ、地域住民や学外の方にお越しいただき、皆様の交流の場としていただくことを目的に作りました。

ビアテラスでは、地ビール（クラフトビール）を中心に提供し、これに合う地元の食材を使ったおつまみを用意しています。

ビアテラスの設置は、本学初の試みですので今年は手探り状態での運営となりますが、皆様の意見を聞きながら居心地の良い空間作りをしていきたいと思っています。（今年度は10月末までの営業予定）8月1日（火）にオープンセレモニーを行いました。



TOPIC 03

平成29年度高校生講座を開催

毎年、高校生に対し、本学の各研究室における実験・実習の体験を通して大学の教育研究の現状を積極的に情報提供することにより、科学及び技術に対する興味や関心を高めるとともに、今後の進路選択の一助とすることを目的として「高校生講座」を開催しております。

本年度は、新潟県内の13校から高校生142名の参加を得て、右記のとおり開催しました。

◆高校生講座（Ⅰ期）（8月7日～8日）

長岡高校理数科1年77名の高校生が15テーマに分かれて最先端の実験・実習を受講しました。

◆高校生講座（Ⅱ期）（8月17日～18日）

柏崎高校理数コース2年35名、北越高校8名、万代高校1名、燕中等教育学校2名、高志中等教育学校2名、巻総合高校1名、帝京長岡高校2名、五泉高校2名、柏崎翔洋中等教育学校3名、長岡工業高校4名、新発田南高校2名、及び新潟南高校3名の合計65名の高校生が、7テーマに分かれて最先端の実験・実習を受講しました。

TOPIC 04

第2回食料・エネルギー分野のイノベーションによる地方活性化に関する国際会議（2nd ISLife2017 Summer）を開催

8月9日（水）～10日（木）、鹿児島県長島町総合開発センターにおいて、「第2回食料・エネルギー分野のイノベーションによる地方活性化に関する国際会議（2nd International Symposium on Local Innovative Activation by Food and Energy, ISLife, 2017 Summer）」を開催しました。

ISLifeでは、本学学生が長島町の農林水産業や旅行業における現状と課題を発見するため、長島町の漁港・みかん園・風力発電機展望所へ現場訪問をし、現地調査を実施させて頂きました。またその後のワークショップやポスターセッションでは活発な意見討論が行われました。

同日、並行して「長島町English Days」が開催され、本学の留学生及び日本人学生が参加しました。English Daysには、タイ、ベトナム、タンザニア、マレーシア、スリランカ、モンゴル、ネパール出身の本学留学生、教員、日本人学生が長島町の中学生と交流し、国際連合が掲げる17の持続可能な開発目標（17 Sustainable Development Goals: SDGs）を英語のゲームを通して学びました。



TOPIC 05

混住型学生宿舎 リンテックハウス（Link TeCH House）の開所式を挙行

8月30日（水）に、混住型学生宿舎 リンテックハウス（Link TeCH House）の開所式を挙行しました。

本学は今後、更なるグローバル社会に対応していくための事業を展開していくにあたり、留学生の増加を見込んでおり、多様な国籍の学生と共同生活を通じ、多文化理解・グローバルな視野を身に付けてもらうことを目的に、平成27年から混住型学生宿舎の建設を計画していました。

この宿舎は、グローバル社会で活躍できる意欲を持った学生のために日本人学生と外国人が一緒に生活できるシェアハウス型とし、国際性に富んだ生活環境が体験できる施設を整備しました。

開所式には学内外から約100名の方にご臨席いただきました。



【宿舎名称】

リンテックハウス（Link TeCH House）

意味：Te: Technology C: Culture H: Human）技術、文化、人にリンクする（繋がる）宿舎

留学生と日本人学生が混住（シェアハウス）で生活する学生宿舎

TOPIC 06

IGCN2017&STI-Gigaku

第6回 国際技学カンファレンス in 長岡（The 6th International GIGAKU Conference in Nagaoka）及び国際会議 2nd STI-Gigaku 2017を開催しました。

第6回国際技学カンファレンス in 長岡（IGCN2017）は、10月5日（木）、6日（金）に「The Future of GIGAKU Education」のテーマの下、GIGAKU（技学）の理解を深め、また、長岡地域の国際化を充実させるために開催いたしました。

国内外の大学、高専、企業等から総勢210名（16か国）の方々にご参加いただきました。

また、10月6日（金）、7日（土）の2日間にわたり「国際会議 2nd STI-Gigaku 2017」を開催しました。

2回目の開催となる今回は、前回に引き続き、学生が主体となって、昨年の国連サミットで採択された2030年開発アジェンダ「持続可能な開発目標（SDGs）」（17の目標と169のターゲット）をもとに、エネルギー、気候変動、貧困や飢餓など、持続可能な開発のための諸目標を議論しこれを解決する方法について、活発な意見交換が行われました。



GIGAKUカンファレンス



STI-GIGAKU

技大祭



技大祭実行委員会集合写真

第37回技大祭を終えて

建設工学課程4年
長岡工業高等専門学校出身

鹿ノ内 溪介

Keisuke Shikanouchi



こんにちは。第37回技大祭実行委員長の鹿ノ内です。第37回技大祭をお楽しみいただけたでしょうか。台風の接近の為技大祭の開催が危ぶまれる状況ではありましたが、今年度も無事技大祭を終えることができほっとしています。これも今回のテーマ「conneXion」のごとく、参加団体の皆様、ご支援いただいた先生方、運営に携わり全力でサポートしてくれた実行委員をはじめ、技大祭に関わってくださった皆様の心を1つに繋げ、ご協力いただいたからだと思っています。この場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございました。

私ごとではありますが、今年1年間の技大祭実行委員会での活動を通して多くのことを学び、

経験をすることができました。苦勞をすることもありましたが、組織の責任者として運営することの難しさを身をもって経験し、支えてくれる仲間の大切さを知りました。私の力不足で迷惑をかけることがありましたが、技大祭の成功という同じ志を持った仲間と共に切磋琢磨し、意見交換を行う時間は大変充実したものでした。技大祭実行委員長として活動してきた中で得た経験は何事にも代えられない一生ものの宝物です。先輩方から受け継いだ思いをしっかりと後輩たちに引継ぎ、今後とも地域の皆様、来場者の方々に愛される技大祭を目指し尽力いたします。今後とも技大祭実行委員会をよろしく願いいたします。

国際祭り

スーパーグローバル祭り



博士後期課程
エネルギー・環境工学専攻3年
出身：ベネズエラ

Perez Perez Juan Jesus

ペレス ペレス フアン ヘスース



今年度の留学生会長Perez Juanです。以前からも技大祭の時に「国際祭り」に参加したことがありますが、今年初めて幹部を任されました。国際祭りは技大祭のなかで留学生が日本人と共に店をだして、そしてステージで時間を借りてダンスと文化紹介をすることです。私の仕事を簡単に説明すると技大祭実行委員と留学生の連携しやすい環境を作ることだと思います。

毎年たくさんの人々が色んな国の料理と文化を

体験できるチャンスを楽しみにしています。そして、長岡技術科学大学の留学生がこのイベントの舞台で自分の国の良さを思い切ってみせることも熱心です。それが分かれば自分の仕事はやりやすくなります。

今回は8か国が参加しました。現在、技大の留学生は30か国を超えていますが、スペースとそれぞれの学生の事情を考えると、比較的に人数が多い国が参加しやすいです。会議は国連のようなものになります。文化とやり方がその国によりもろちん違います。しかし、皆は目的を忘れず楽しい技大を作るのが一番です。

途中で大変なこともありましたが、本番が来たら、色んな国の料理を味わってすぐ忘れます。技大祭のお客さんも同じことを思っていたら幸いです。来年も違う味の国際祭りがあると思うのでその時も楽しみにしてください。



平成29年度父母等懇談会を開催

去る9月17日(日)に平成29年度父母等懇談会(第13回)を開催し、全国から250名を超える父母の皆様から御参加いただきました。

全体会では、東学長あいさつの後、本学の概要と修学状況、就職状況と支援体制、最近のトピックスについて、担当の副学長より説明を行いました。その後、所属課程ごとに分かれ、各課程に特化した課程別全体会を実施いたしました。

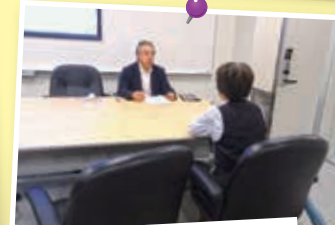
午後からの個別面談では、各課程の会議室・教員室等で学生の修学状況や就職の動向等について、クラス担任や指導教員との率直な相談が行われました。



全体会での学長あいさつ



課程別全体会



個別面談 風景

Report of the receiving a prize

受賞報告

第15回産学官連携功労者表彰・
文部科学大臣賞を受賞して副学長 (IR・広報・評価担当)
技術科学イノベーション専攻 教授

大石 潔

Kiyoshi Ohishi



文部科学大臣賞受賞者3名と文科省贈呈者

この度、平成29年9月1日(金)に、内閣府第15回(平成29年度)産学官連携功労者表彰において、「省エネルギーエアコンのグローバル普及を実現する電源高調波規制適合ローコストインバータの開発」で、文部科学大臣賞を受賞いたしました。身に余る光栄に存じますし、とても嬉しく感じております。本賞は、本学電気電子情報工学専攻准教授の芳賀仁先生、ダイキン工業株式会社テクノロジー・イノベーションセンター主任技師の関本守満氏とわたくし大石の3名で受賞いたしました。ご推薦を頂きました本学関係者の皆様に深く御礼を申し上げます。

芳賀仁先生と関本守満氏は、本学教授でいらっしゃいました高橋勲先生の研究室の同期生です。私を含めて受賞者3名ともが本学関係者であることは、大変喜ばしいことと思っております。

この研究のスタートは高橋勲先生のアイデアから始まりました。「PFC回路および電解コンデンサを不要にできる電源高調波規制適合ローコストインバータ」の基本概念は、現在も高橋勲先生の理論のままです。芳賀仁先生は修士課程と博士課程の学生のときにこの研究に携わりました。関本守満氏は修士修了後ダイキン工業に就職し、その後、ダイキン工業と高橋勲先生との間で本テーマを共同研究することになり、関本守満氏はこのテーマの担当となりました。そして芳賀仁先生(当時は博士学生)と関本守満氏と一緒に研究することになりました。芳賀仁先生が博士課程1年のときに、誠に残念ながら高橋勲先生が

交通事故で他界されました。大石は芳賀仁先生の指導教員を引き継いだ縁でこの研究テーマに携わることになりました。それから約15年、現在に至るまで、芳賀先生・関本氏・大石の3名はこの「電源高調波規制適合ローコストインバータ」の開発研究を行っています。この度の受賞は、故高橋勲先生のアイデアとご指導の賜であると、3名のいづれもが感謝しております。

ダイキン工業は、本技術を搭載したルームエアコンを中国・新興国向けとして平成23年1月に量産を開始しました。初年度の生産台数11万台から順次適用機種を拡大し、平成28年度は155万台と大きく伸ばして、販売開始時期からの累計は400万台になります。この技術の普及を通して省電力化、地球温暖化軽減、環境負荷低減に少しでも寄与できればと3名全員が願っております。



従来のインバータ基板



開発したインバータ基板

開発したインバータ基板を
搭載した
ルームエアコン室外機

編集後記

今回の特集の発端は「お国自慢」でした。大人数の講義が多い文系の大学では、たまたま出会った卒業生同士が講義や先生の話で盛り上がり、連帯が生まれるようです。技大のような研究型大学は少数精鋭で鍛えるので、先輩後輩の縦の連帯は強いものの、横幅が広がり難いのが弱点です。卒業生が共通の話題を求めるとすれば「遊び」でしょうか？研究や就活で忙しいと思いますが、在校生の皆さんには技大の周りへ足を伸ばし、遊びの幅を拡げて欲しいと思います。高尚なものでなくとも必ず役に立ちますから。

VOSの由来 本学のモットーである、Vitality, Originality, Servicesの頭文字をとって、本学初代学長の故川上正光氏により名付けられました。



VOS NO.202 [平成29年11月号]
編集発行 長岡技術科学大学広報委員会

◎本誌に対するご意見等は下記までお寄せ下さい。

〒940-2188 新潟県長岡市上富岡町1603-1

TEL. 0258-47-9209 FAX. 0258-47-9010 (大学戦略課)

E-mail : skoho@jcom.nagaokaut.ac.jp URL : http://www.nagaokaut.ac.jp/

リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。